

二〇一二年七月に固定価格買い取り制度が導入され、太陽光発電バブルが起きました。そして今年九月末に東北電力から突然発表された太陽光発電設備の連携申し込みに対する回答の保留。福島県では、四〇年までに再生可能エネルギー100%を目指すことを復興の旗印にしていただけに、このニュースは大きな衝撃でした。

双葉郡の原発事故被災地では人が入ることすら制限された土地が広がる中、利益優先ではなく思いを込めた再生可能エネルギーによる市民が動きだそうとしていたところだけにショックは大

東北復興日記



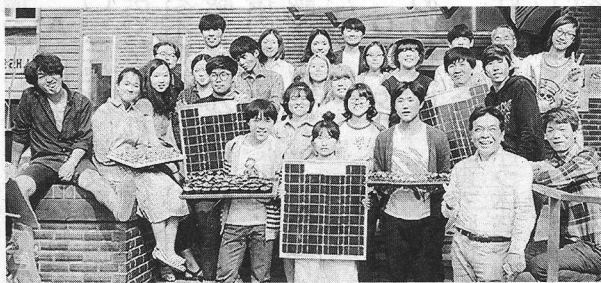
いわきおてんとSUN
企業組合事務局長
島村 守彦さん

動きだした未来への活動

きなものです。

日本国内では3・11が風化する中、世界ではその教訓を生かす動きが衰えることなく、さまざまな活動に繋がっています。

今年一月に韓国の団体より招かれました。メディアが流す過酷な福島しか知らない韓国の皆さんに、本当の現状と人々の思い、苦悩、そして未来への取り組みを紹介させていただきました。私



の声掛けに応じ、韓国の団体とテレビ局が福島を訪問。本当の福島の様子を放送を通じて紹介するこ

とができました。五月にはソウル市内で「手作り太陽光パネル講習会」も開催し、講師育成を行いました。写真。今では地元の青年による講習会が開催されています。九月には原発反対運動を進める市民団体、原発労働者、韓国電力公社の幹部という、立場と意見の違う人々が、福島の教訓を生かそうと開かれた会に招かれ、未来に向けての意見交換を行うこともできました。これらの交流が契機となり、「アジアエネルギー青年フォーラム」の設立が決

まりました。日本、韓国、中国、台湾、フィリピンの青年たちが集い「福島の教訓」を生かした、未来への活動が始まるうとしています。

日本では原発再稼働と再生可能エネルギー連携保留。何か違う方向に動きだしています。「福島の教訓を希望ある未来に繋げる」。それが私たちの世代の責任であり、今なすべきことではないのでしょうか。

この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。